

令和4年における海難発生状況（速報値）

令和4年に徳島海上保安部（美波分室含む）管内で発生した海難発生状況は以下のとおりです。

●船舶事故

- 「船舶事故隻数」：22隻（前年比 - 5隻）
死者・行方不明者：0人（前年比 ±0）

●人身事故

- 「人身事故者数」：14人（前年比 +2人）
死者・行方不明者：6人（前年比 +1人）

船舶事故隻数は【22隻】となっており、前年（令和3年）と比べて【5隻減少】しました。

なかでも【プレジャーボート】及び【漁船】による船舶事故は減少したものの、昨年は発生していなかった【遊漁船の事故】が5隻発生しています。

人身事故者数は【14人】となっており、前年（令和3年）と比べて【2人増加】し、令和元年以降、年々増加傾向にあります。

なかでも【乗船中の負傷事故】が7人、【マリンレジャーに伴う人身事故】が6人となっており、それぞれ昨年に比べて増加しています。

直近5年間における船舶事故及び人身事故の推移

区分		H30	R1	R2	R3	R4 ※
船舶 事故	船舶事故隻数（隻）	20	19	24	27	22
	死者・行方不明者数（人）	2	2	0	0	0
人身 事故	人身事故者数（人）	14	8	10	12	14
	うち死者・行方不明者数（人）	3	7	5	5	6

※ R4 は速報値

船舶事故発生状況

・船舶種類別では、プレジャーボート 12 隻（全体の約 5 割）が最も多く、次いで遊漁船 5 隻、漁船 4 隻の順となっており、小型船の事故が全体の 9 割以上を占める。

・海難種類別では、運航不能※12 隻（全体の約 5 割）が最も多く、次いで衝突 4 隻、乗揚 4 隻となっている。

・運航不能 12 隻のうち、機関故障によるものが 6 隻となっている。

※ 運航不能：運航に必要な設備の故障、燃料等の欠乏等により、船舶の航行に支障が生じること。

人身事故発生状況

・事故種類別では、負傷 9 人（全体の約 6 割）と最も多く、次いで海中転落 3 人、溺水 2 人となっている。

・活動区分別では、乗船中※の人身事故 7 人、マリンレジャー※に伴う海浜事故 6 人、マリンレジャー以外の海浜事故 1 人となっている。

・乗船中の人身事故は負傷 7 人となっており、そのうち漁船での事故が 5 人と最も多い。

・マリンレジャーに伴う海浜事故 6 人のうち、釣り中の事故が 4 人と最も多く、次いでサーフィン中の事故が 2 人となっている。

※「マリンレジャーに伴う海浜事故」とは、海水浴、釣り、潮干狩り、サーフィン等の海洋における余暇活動に伴って発生した事故のうち、「船舶の運航を伴わないもの」を計上しております。

そのため、船舶の運航を伴うマリンレジャー中の人身事故については「乗船中の人身事故」として整理・計上しております。